

発明のまち都留市

第1回 市民手づくり 発明工夫展

都留市は古くから城下町、甲斐絹の里として栄えてきました。

また、戦後は機械金属工業が興隆し、躍進を続けています。

産業の発展を一層身近かなものにし、ふるさとづくりを進める意味合いから、つぎにより第一回市民手づくり発明工夫展を開催することになりました。

ふるってご応募ください。

一、目的 発明を通じ、ふるさとづくり人づくりを推進する

一、課題 自由

一、資格 都留市民

一、搬入先 都留市役所

一、搬入日 10月30・31日

一、表彰 20名に市長賞、出品者に参加賞

一、審査 市長、議長等

一、展覧日時 11月3日～7日

一、展覧会場 都留市役所

あなたも発明家に

10月8日(月)からいつでも発明講習会講師を派遣します。

市では、11月3日から7日まで第一回市民手づくり発明工夫展を開催し、発明によって新しいまちづくり人づくりを推進することになりました。

この発明講習会を受講され、ご

自身が発明家となり、手づくりで発明品を完成させ、それを展覧会に出品してみませんか？

つくる楽しさ、工夫する楽しさ完成させる楽しさをたっぷり味わってください。

発明は、だれでもその気になりさえすれば、すぐできるもので、決してむずかしいものではありません。

他を思いやるやさしい愛の心持ちと、現在使われているものの欠点短所を探求できれば(欠点を探求できればその発明は六十八ーセ

あなたもお出かけください

朝市は8月12日(日曜日)スタートしました。当日出店農家があるか？買う人が来るか？不安のうちには午前5時30分朝露をついて、出店農家の軽四輪車の音がきこえ、



ント解決といわれます。あとはその欠点に対し定石として、発明の仕方、方法を適合させるだけでよいわけで、決してむずかしいものではありません。

要は発明の仕方、方法のコツを覚えるだけでよいのです。

また、日常の身の回りにあるものを活用してゆく大切さをお互に考え、小さな発明、工夫を心がけてゆこうとするものです。

講習会では、このほか発明とはどんなものか、発明の効果、発明の楽しさ、発明と人づくりなどに

次々と到着し、市役所前広場に農産物が陳列されました。その数、20数店となりました。一方買う人は、同じ時刻に約500人の人が集まり、一時間で売り切れるという状況で、幕あけにふさわしく盛況に終わりました。しかし、回を重ねるごとに、出店農家及び買う人が互いに早くなり、7時にきた人は買えないで帰る、という苦情も出てきました。そこで運営委員会で、出店者に午前6時前は陳列しないよう呼びかけています。また、朝市の意見をきいてみたところ、買う人はまず新鮮なものが買えるという魅力が第一の意見でした。出店農家は、今年は計画的に作物

ついて皆さんとともに勉強しようとするものです。どうぞ遠慮なく皆さんの自治会やグループ単位で申し込みください。講師を派遣します。

さらに、青少年のためには「青少年発明クラブ」を設立して、大人と子どもが楽しく生活に工夫をしながら、ふるさとづくりを進めていこうと計画しております。あなたも発明家となって、第一回手づくり発明工夫展に出品して新しいまちづくり人づくりに参加してみよう。

を作らなかつたため、出品物が少ないが、来年は水田再編がいつそうきびしくなるので、計画的に作付けし換金作物につなげてゆきたいという意見もありました。

この朝市は現在の子定だと11月まで続ける予定ですが、農家の方には、一店でも多く出店していただくことと、買う人も近所おさそいあわせお出かけくださるようご協力をお願いします。なお、この朝市はつぎの朝市運営委員会が行っています。会長、杉本武男、委員、中野博文、奥秋宅也、安富雅孝、室伏武、平井宣近、天野利国、前田唯雄、鈴木登、清水重雄、小侯忠雄、中島久次、小林功、国井豊次郎、花田宣一、近藤世作、菊地啓三、安田幸夫、藤江五郎、谷内久治、志村徳雄、小林昌治、木田政治、中野禎一。